

幼保小の **架け橋** プログラムだより

このお便りは、横浜市の「架け橋プログラム」の一環として発行しています。架け橋期の教育の充実のために、みなさんの取組に生かしてください。

令和5年度第2回接続期研修会 @ 関東学院六浦こども園

～子どもの主体性をつなぐ そばにいてうれしい大人になろう～

9月26日(火)の研修会では、午前中に公開保育を参観(オンライン参加者は後ほどその様子を動画視聴)し、午後にそこで見られた子どもの姿をもとに担任(園)、専任(小学校)、コーディネーターの三谷大紀先生が語り合うシンポジウムを開催しました。

それぞれの子どもが夢中になっている遊びがあり、それが大切にされていました。

お祭りがきっかけで始まった遊びを(お祭りが終わっても)まだ楽しみたい子もいるし、切り替えて次をしたい子もいる**グラデーションの状態**です。



関東学院
六浦こども園
年長担任

「全員が同じことに…」は嘘っぽいですね。**何人かの「楽しい」が、広がる。**誰かが楽しそうにしていると、「私もやってみよう」となっていくものですね。

日常の活動の中で、子どもの心がふと動いた瞬間を大事にしたいいつも思っています。



日常の活動からのスタートは**当事者性が大事**にされますね。それに、「遊び中心の保育」からは**問いが生まれます。**

自由遊びからクラスの集まりへ、活動を止めて片付けることは難しくない?

片付けには、物理的な片付けだけでなく、**明日も続きができるように、整えていく**という意味もあります。生活の中で必要性を感じ、意味を考えていきます。

小学校では時間割もあって、どうしても「次は国語だから早く片付けよう。」と切り替える必要もあります。でも、**形だけではなく気持ちに目を向けるのも大事**だと思いました。



小学校
児童支援専任

時間ではなく、子どもの**遊びの状況、終息の様子**を見て声をかけるようにしています。「片付ける」より、「仕舞う」というイメージです。



「主体性」と「自由」、似ているけれど何が違う?

関東学院大学
教育学部准教授
三谷大紀先生



自由とは、自分の思い通りにできることです。ただしそこには、他の人の自由を守り、侵害しないことが必要です。だからみんなの自由を守るため、ルールが生まれていきます。**主体性**とは、その人のありようそのものだと思います。だから、その人がどうありたいか、どうしたいかは当人に聴く。教師も一緒に受け止め、私は何ができるだろうと考えることが大切です。



子どもを、**大人が操作する**、動かそうとする対象としてみることをしない。それには人として信頼し人として見る覚悟が必要。

子どもの遊びのきっかけが、中学生の鉄道研究会や地域の方の和太鼓など、「本物と出会う」機会となり**園が地域を生かす**ことになっています。その一方で、地域もそれに喜びを感じ、**園が地域へ貢献**していることにもなっています。**それぞれ、子ども真ん中社会**ですね。

こども青少年局保育・教育支援課

幼保小連携担当

045-671-3731

kd-youhosyo@city.yokohama.jp